

「近畿圏の目指す姿」について － 主要な視点(要約版) －

◆本資料は、「資料2」を説明するために、要約版として作成したものです。

1. 歴史・文化に誇りとこだわりを持って本物を産み出す地域

関西が持つ質にこだわったまちづくり、ものづくり、ひとづくりの伝統を活かし、新たな技術、意匠、コンテンツ、ライフスタイルを創造するとともに、観光にとどまらず、これら「本物」を活用したビジネスモデル「関西ブランド」を展開する。

2. 首都圏とは異なる多様な価値が集積する日本のもう一つの中心核

多彩な都市、文化、暮らし、産業が息づき、生活の豊かさを実現する日本のもう一つの中心核を関西に形成することにより、東京一極集中の是正にも寄与するとともに、非常時には首都機能のバックアップを担う。

3. 我が国をリードする世界に冠たる産業拠点

多様で層の厚いものづくり基盤技術、高水準の大学・研究機関、豊かな人材の集積を活かし、圏域内外の円滑なネットワークを強化することにより、次世代産業やクリエイティブ産業の育成などを通じて、我が国経済をリードする。

4. 国内外の創造的な人材が行き交う交流拠点

アジアをはじめとする諸外国との強い人的・経済的繋がりと、関空の24時間化を活かした世界との細やかな航空ネットワークの形成により、国内外の優秀な人材が関西を拠点に密度の高い交流を展開し、新たな価値を創造・発信する。

5. 人と自然が共生する持続可能な世界的環境先進地域

多様な主体の協働により関西が有する豊かな環境を保全・再生し、後世に引き継ぐとともに、CO2排出、廃棄物発生、水質等について圏域として達成すべき環境目標を設定し圏域全体でマネジメントする。

6. 都市と自然の魅力を日常的に享受できる地域

関西がもつ自然的魅力と都市的魅力が近接し双方を同時に享受できる利点を活かして、都市農村交流や二地域居住を容易にするための仕組・基盤を整えることにより交流人口を増やすとともに、多様なライフスタイルを可能とする圏域として情報発信し、人が集まる圏域を目指す。

7. 各種機能の分散施策からの転換による都市・地域の再生

国際ビジネスや研究開発など諸機能の分散施策を抜本的に転換し、諸機能の集中化、自然環境の回復・保全等を広域的観点から行い、大都市地域を再生する。拡大成長・効率優先の都市・地域政策を転換し、人口減少・高齢社会の中で、豊かさを感じられるまちづくりを行う。

8. 農山漁村の適正な維持と高付加価値型農業の展開

農山漁村の多面的機能を十分に発揮させるため、その適切な整備と保全を行う。都市農村交流や地域密着型産業の導入等により、過疎化・高齢化が著しい地域社会の維持・活性化を図るとともに、地域ブランドを活かした高付加価値農業や「安心」「環境配慮」に関し意識の高い消費者向けの農業を展開する。

9. 人々が自律して暮らせる高福祉地域

地域社会を基盤とした福祉の充実に努めるとともに、市民・企業・団体等の民間主体が、「新たな公」として、地域防犯等のまちづくりに取り組むことにより、地域コミュニティを再生させ、安心して暮らせる圏域を目指す。

10. 産業・暮らしを支える災害に強い安心・安全づくり

将来の圏域像を描く前提として、災害に強い地域を目指す。その上で、防災関連の各種機能の集積を活かし、連携強化することで、防災分野における研究・教育と実務を兼ね備えた国際防災拠点を形成する。

11. 我が国の顔となる文化を核とした観光地域づくり

固有の文化を核とした観光地域づくりを行う。その際、多様な観光コンテンツの提供と情報発信を行うとともに、交通ネットワークを強化し、何時でも誰でも快適に回遊できる観光圏域として、国内外から多くの来訪者を関西に導く。

12. アジア・世界規模の国際分業を支える複合物流体系づくり

大阪湾ベイエリアを西日本の中核的物流拠点として位置づけ、細やかな国際ネットワークを形成するとともに、他圏域も含めた背後圏を結ぶ国内ネットワーク強化を進めることで、ドア to ドアのトータル時間・トータルコストを低減させる。

13. 都市・地域間の広域的な役割分担と「新たな公」による地域づくり

府県等の行政単位ごとに進められてきた各種政策に加え、広域的な視点で相互補完することが望ましい分野について、明確な役割分担により集中投資を行い、その投資効果を圏域全体で享受できるよう、都市・地域間のネットワークを強化する。